

関東大震災 100 年事業賀川豊彦とボランティア実行委員会・連合東京 共催

関東大震災 100 年事業「防災まちあるき」

開催日： 2023 年 9 月 13 日（水）

参加者： 別紙参照

日 程： 下表のとおり

時 間	内 容
13:30	開会 上本 俊之 連合東京政策局・局長 実行委員会挨拶 青竹 豊 実行委員会 参与 労働者協同組合連合会 常勤顧問
[第 1 部] 講演会／すみだ産業会館 9 階・第 4 会議室	
13:40	講演 1 「東京都における災害ボランティア活動支援について」(20 分) [講師] 村田 陽次 東京都生活文化スポーツ局地域活動推進課 統括課長代理
14:00	講演 2 「賀川豊彦と関東大震災」(20 分) [講師] 杉浦 秀典 賀川豊彦松沢資料館 副館長
[第 2 部] 防災まちあるき／すみだ産業会館～墨田区内 4 か所～すみだ産業会館	
14:20	趣旨説明 真島 明美 実行委員 連合東京 社会政策局長
14:30	2 グループ（1号車：実行委員会、2号車：連合東京）を編成 →すみだ産業会館前のバス乗場へ移動 →バス 2 台に分乗
14:40	バス出発・移動
14:50	①<被災地> 旧陸軍被服廠跡（横網町公園内復興記念館・慰霊堂） ※トイレ有
15:35	バス出発・移動
15:55	②<賀川豊彦の復興活動拠点> 本所賀川記念館 ※トイレ有
16:25	バス出発・移動
16:40	③<企業・行政が連携する防災拠点（一時集合場所、避難場所、防災喫煙所）> 日本たばこ産業株式会社東京支社周辺 ※車内から見学／喫煙所有
16:55	バス出発・。移動
17:10	④<自治会・行政が連携する防災拠点（防災団地、災害用井戸・トイレ等）> 白髭東地区団地 ※トイレ有
17:30	バス出発・移動
17:55	バス すみだ産業会館前に帰着 →交流会出席者は下記会場へ直行／交流会欠席者は解散
[第 3 部] 交流会／すみだ産業会館 8 階・ホール D	
18:00 ～ 19:30	交流会（次第裏面）
<緊急連絡先> 連合東京・真島（会場～バス～会場）： 090-3098-5176 連合東京・上本（会場）： 090-2461-6177	

関東大震災 100 年事業賀川豊彦とボランティア実行委員会・連合東京 共催

関東大震災 100 年事業「防災まちあるき」 交流会

日 時： 2023 年 9 月 13 日（水） 18:00～19:30

場 所： すみだ産業会館 8 階・ホール D

出席者： 別紙参照

次 第

開会 杉浦 秀典 賀川豊彦記念松沢資料館 副館長

連合東京挨拶・乾杯 佐藤 重己 連合東京 会長代行

歓談

参加団体自己紹介

歓談

閉会挨拶 石井 マヤコ 公益財団法人賀川事業団雲柱社 理事長

「関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会・連合東京 共催

関東大震災100年事業 「防災まちあるき」



日時： 2023年9月13日（水）13:30～18:00

場所： すみだ産業会館～墨田区内4か所

参加者： 52名

日本労働者協同組合連合会
生活協同組合コープみらい
一般社団法人日本社会連帯機構
東京YMCA
社会福祉法人雲柱社
公益財団法人賀川事業団雲柱社
賀川豊彦記念松沢資料館
一般財団法人本所賀川記念館
一般社団法人東京労働者福祉協議会
日本労働組合総連合会
日本労働組合総連合会東京都連合会
東京都生活文化スポーツ局
すみだボランティアセンター

今回の「防災まちあるき」では、労働組合・協同組合・共助団体の立場から、100年前の関東大震災の被災地と賀川豊彦の復興活動拠点、現在の行政・企業・住民が連携した地域防災拠点の現場を訪れ、防災・災害復興における共助の重要性について学びました。



実行委員会挨拶 青竹



豊 実行委員会 参与

[第一部] 講演会／すみだ産業会館

講演 1 「東京都における災害ボランティア活動支援について」

[講師] 村田 陽次 東京都生活文化スポーツ局地域活動推進課 統括課長代理



R5地域防災計画の修正を踏まえ、東京都は多様な主体と連携した災害ボランティア支援施策をよりいっそう充実化・具体化させていく

具体策

1. 平時から顔の見える関係づくりを充実

* アクションプラン推進会議への参加

災害時に東京都災害ボランティアセンターを円滑に設置・運営するために、平時から参加団体とともに検討や意見交換を行う

* 多様なプログラムの開催や参加

災害ボランティア担当者連絡会議の開催、東京都総合防災訓練への参加



災害ボランティア担当者連絡会議



東京都総合防災訓練 (まちあるき)



2. 災害時の対応について、具体的な検討をすすめる

* TVACや市民活動団体とともに、効率的・効果的な災害VCのあり方等を整理

* 区市町村災害VCや市民活動団体との情報共有の仕組みなど災害時のスキームを検討

[第一部] 講演会／すみだ産業会館

講演 2 「賀川豊彦と関東大震災」

[講師] 杉浦 秀典 賀川豊彦松沢資料館 副館長



現地にて

100% with KAGAWA



被災地にて
賀川豊彦 (中央)
末広龍太郎 (左)
石田友治 (右)

神戸を発って東京へ到着した賀川は、神田美土代町の東京YMCAを訪れ、焼け残った石段の前で、大声で賛美歌を歌っていた賀友石田友治と再会した。そしてその互酬の中でともに「東京を再興したまえ」と祈った。それはただの空しい神頼みの言葉ではなかった。灰燼の中で賀川と石田や仲間たちは現状の情報交換をし、眼前の救済についての打ち合わせをし、実行に移す前に神に期待をこめた祈りであった。その後、彼らは上野へと足を向けた。上野公園で始まっていた、ミルク配給所の様子を見るためであった。数人の専任する青年らが新しい順番にコンテンスミルクとバケツを載せて引いていく姿を見て、賀川は重んだ。そして小高い丘から帝都東京を見渡し、そのあまりの惨状に茫然自失となった。まだ火はくすぶり続けており、その焼け野原を前にして立ち尽くすしかなかった。

石田友治は1923(大正12)年3月に東京YMCA講堂で賀川が提唱した「復活共済組合」に賛同して以来、1942(昭和17)年に彼が召天するまで約20年間、賀友として賀川と活動を共にした。彼は医療組合設立など数々の活動を行った。

ボランティアスタッフたち

100% with KAGAWA



本所産業青年会で働いたスタッフとボランティアたち

賀川の活動は、この後各種の事業へと発展を遂げてゆく。彼はセツルメント活動を各種、実際に始めることで、地域の回復とまちづくりを始めていった。そのために賀川は、人的な組織化をはかり、各種事業をも組織して運営に乗り出すのであった。

[第二部] 防災まちあるき／墨田区内4か所の見学（バス移動）

① 関東大震災被災地：旧陸軍被服廠跡（横網町公園内復興記念館・慰霊堂）



[第二部] 防災まちあるき／墨田区内4か所の見学（バス移動）

② 賀川豊彦の復興活動拠点：本所賀川記念館



[第二部] 防災まちあるき／墨田区内4か所の見学（バス移動）

- ③企業・行政が連携する防災拠点：日本たばこ産業株式会社東京支社周辺
（一時集合場所、避難場所、防災喫煙所）



[第二部] 防災まちあるき／墨田区内4か所の見学（バス移動）

- ④自治会・行政が連携する防災拠点：白髭東地区団地
（防災団地、災害用井戸・トイレ等）



参加者交流会



挨拶 石井 マヤコ
公益財団法人賀川事業団雲柱社 理事長



挨拶・乾杯 佐藤 重己
連合東京 会長代行